

## 解説



# 経営委員会第6回座談会

## 日本における研究開発・技術開発の今後の課題を探る

### *Inquiry into a Future Problem of the Research and Development/ the Technology Development in Japan*

星野 岳穂<sup>\*1</sup>

Takeo Hoshino

笠 俊司<sup>\*2</sup>

Shunji Kasa

齊藤 潔<sup>\*3</sup>

Kiyoshi Saito

齋藤 圭介<sup>\*4</sup>

Keisuke Saito

谷本 勲<sup>\*5</sup>

Isao Tanimoto

近岡 淳<sup>\*6</sup>

Jun Chikaoka

中島 建夫<sup>\*7</sup>

Takeo Nakajima

(司会) 矢野 宏<sup>\*8</sup>

Hiroshi Yano

## 1. はじめに

**近岡** 本日の経営委員会座談会は経済産業省大臣官房審議官（産業技術，基準認証担当）の星野岳穂氏を招き，氏を囲んで「日本における研究開発・技術開発の今後の課題を探る」というテーマで行う。なお，座談会に先立ち，星野氏から「産業技術・イノベーション政策」について，さらに富士ゼロックス，アルプス電気，IHI，KYBから「企業での研究開発・技術開発の課題とそれに対応した品質工学の活動状況」の紹介があった。それは別途本誌に紹介する。司会は矢野宏氏にお願いした。

**矢野** 私は以前経産省管轄の計量研究所（現，産業技術総合研究所）にいたが，そこの研究者は産業技術という名前の組織に所属するが，科学と技術の区別が分かっていなかった。計量研究所はキャリブレーションの研究が主だ。つまり海外から来るキログラム原器とかメートル原器を管理する。計測と測定

は違うということを理解していない研究者が多かった。20年かけて計測技術を自分の中に取り込んだと思っていたが，キャリブレーションの域を超えない。分かりやすくいえば，ブロックゲージでマイクロメータを校正するが，マイクロメータでプラスチックの寸法を測るにはどうするか。厚さ1 mmで，直径1 mのプラスチックの直径をどうやって測るか。正にそういうことだ。これは測れない。三次元測定機を持ってきたって測れない。そういうところが正に計測技術だ。品質工学は科学でなく，技術が対象である。具体的に技術の研究を行う。技術の課題をどうするかというのが一番である。

齋藤圭介氏が先ほど話したが「マネージャー自身に品質工学を実践させる」ことが一番いいと思う。松浦機械製作所は組織賞の田口賞を取った。その役員がマネージャーに発表させたら，マネージャーはみんな嫌な顔をした。発表のための検討委員会にそれこそ死刑にあうような顔をして出てこない。だから私は一人一人を全部呼び出して働きかけを行った。2,3年たったら，彼らはおおむね理解した。それが松浦機械製作所が田口賞を取れた理由である。そこで，齋藤氏が最後に出された問題，非常に重要であるので，そこから話を進めたいと思う。

## 2. 経営者，マネージャーの役割

齋藤(圭) 悩みの一つで現実的にぶつかっている局

\*1 経済産業省

\*2 (株)IHI

\*3 富士ゼロックス(株)

\*4 KYB(株)

\*5 アルプス電気(株)

\*6 (有)近岡技術経営研究所

\*7 東京電機大学

\*8 応用計測研究所(株)